

遠別町 6年度教育行政執行方針 部活動地域移行 課題踏まえ検討 栗山高女子野球部招き取組

（市町村 2024-04-11 付）



遠別町教委・佐藤裕昭教育長

【留萌発】遠別町教委の佐藤裕昭教育長は第1回町議会定例会で、6年度教育行政執行方針を説明した。部活動の地域移行について、少子化等の社会的課題を踏まえた検討を進めていくほか、前年度に大規模改修した野球場のリニューアルオープン事業として、栗山高校女子硬式野球部を招待した取組を実施する。

執行方針の概要はつぎのとおり。

▼学校教育の推進

学力向上の取組として、より一層外国語教育の充実を図るため、英語指導助手を活用し、英語を通じた国際理解教育の向上と実践的コミュニケーション能力を養うことを目的に効果的に授業が実施できるよう環境づくりに努める。

子どもたちの特性や学習進度等に応じた、複数教員によるチーム・ティーチングなど授業改善を行い、きめ細かな学習指導に努め特別支援教育支援員の配置を継続し、児童生徒の学力向上に向けた取組を進める。

また、全国学力・学習状況調査結果の活用・分析を進め、学習指導の改善・充実に向けて、教職員が一丸となった取組を支援し、楽しく学べる環境づくりや、幼児から高齢者まで、幅広く連携した異校種・異世代の交流や地域の外部講師による授

業などを取り入れ、地域の教育資源を有効に活用した学習の継続に努めるほか、いじめの未然防止の取組を充実させるとともに、不登校等の解消をはじめとして、様々な問題に対応するため、スクールソーシャルワーカーを配置し、子どもたちおよび保護者の課題解決を目指す。

個別最適な学びと協働的な学びの実現のため、新しい技術や学習方法など、さらなるICT機器を有効活用した授業が求められ、楽しみながら効率的な学習を進めることができるよう、ICT支援員と協力し、教職員のスキルアップを含めて支援する。

引き続き、学校行事の在り方やICT技術など、情勢と対策を考慮し学校の運営に努めていく。中学校の部活動地域移行について、国や北海道の指針は、少子化等で部活動の維持が困難になる中でも、将来にわたり地域の子どもたちがスポーツや文化活動に継続して、親しむことができる環境の整備を目的としている。しかし、地域では部活動指導者等の人材確保も困難であるため、スポーツ愛好者、学校関係者等と検討を進める。

働き方改革関連では、町立学校における働き方改革アクションプランに基づき、学校行事や部活動の在り方、学校業務の効率化等、学校のより一層の働き方改革推進のため、校務支援システムを活用し、教職員一人ひとりが仕事をしやすい環境づくりに取り組むことによって、教職員のストレスチェックを実施し健康保持に努め、業務改善および勤務時間管理等に係る事務の軽減を図り、円滑な学校経営を目指す。

遠別中学校校舎改築については、中学校建設基本構想をもとにした実施設計が完成し、改築に向け、建設工事を進めていく。

学校給食については、適切な衛生管理により、施設・設備等の保全、効率的な調理業務、さらにはアレルギー体質児童生徒への対応など、安心して安全な学校給食の提供に努めていく。

また、本年度も学校給食費の2分の1の助成を実施し、子育て世帯の経済的な負担軽減を図るとともに、補助教材費の助成および中学校指定運動着、かばんの購入費の助成を継続する。

遠別農業高校の支援については、6年度の当初の入学願書受付数では13人となっており、昨年と比べ若干減少したが、今後も教育振興会、高校、行政、教育委員会が一体となった生徒募集活動およびPR活動を継続し、入学者数の確保に努めていく。また、各種活動の情報発信を積極的に行之、学校の特色を生かした魅力ある学校づくりを支援する。

▼社会教育の推進

昨年大規模改修を行った野球場について、リニューアルオープン事業として、栗山高校女子硬式野球部を招き、利用促進に努める。

（市町村 2024-04-11 付）